

# 2021年度 第3四半期 決算説明会

2022年2月1日

**ブラザー工業株式会社**

**常務執行役員財務担当 伊藤 敏宏**

当資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来の業績に関する見通しであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度等に関するさまざまなリスクや不確定要素により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おください。

## 2021年度 第3四半期（10月-12月）実績

為替のプラス影響に加え、主にマシナリー事業が堅調に推移し、売上は増収  
事業セグメント利益は、物流・部材コストが大幅に悪化したことにより、減益

## ◆ 売上収益 1,845億円/ +4.0%（前年比）

- ✓ P&S事業は、主に為替のプラス影響により、増収
- ✓ P&H事業は、巣ごもり特需で高い水準であった前年からは減収
- ✓ マシナリー事業は、工業用マシンでのアパレル向け設備投資需要の回復に加え、産業機器、工業用部品も堅調に推移し増収

## ◆ 事業セグメント利益 235億円/ ▲25.0%（前年比）

- ✓ 主にP&S事業における平均単価の上昇や為替のプラス影響があったものの、物流・部材コストが大幅に悪化したことにより減益

## 2021年度 通期業績予想 / 株主還元

主に為替のプラス影響を織り込み、売上・利益の見通しを上方修正  
業績予想の見直しにともない、配当予想を引き上げ。自己株式の取得を行う

## 2021年度 第3四半期決算

為替のプラス影響に加え、主にマシナリー事業が堅調に推移し、増収となりました。  
事業セグメント利益は、物流・部材コストが大幅に悪化したことにより、減益となりました。

売上収益は、前年同期比 4.0%増の 1,845億円となりました。

P&S事業は、主に為替のプラス影響により、増収となりました。

P&H事業は、巣ごもり特需で高い水準であった前年からは減収となりました。

マシナリー事業は、工業用マシンでのアパレル向け設備投資需要の回復に加え、産業機器、工業用部品も堅調に推移し、増収となりました。

事業セグメント利益は、235億円となりました。

主にP&S事業における平均単価の上昇や為替のプラス影響があったものの、物流・部材コストが大幅に悪化したことにより、減益となりました。

## 2021年度の通期業績予想

主に為替レートが想定よりも円安で推移したことによるプラス影響を受け、売上・利益の見通しを上方修正いたします。

## 株主還元

業績予想の修正にともない、配当予想を引き上げます。加えて、自己株式の取得を行います。

## 2021年度 第3四半期（10月-12月）業績

為替のプラス影響に加え、主にマシナリー事業が堅調に推移し、売上は増収  
事業セグメント利益は、物流・部材コストが大幅に悪化したことにより、減益

単位：億円

	20Q3	21Q3	増減	増減率 ( ) は為替影響 除く増減率
売上収益	1,774	<b>1,845</b>	70	4.0% (-2.1%)
事業セグメント利益	314	<b>235</b>	-78	-25.0%
事業セグメント利益率	17.7%	<b>12.8%</b>		
その他の収益・費用	-10	<b>13</b>	24	
営業利益	303	<b>248</b>	-55	-18.1%
営業利益率	17.1%	<b>13.5%</b>		
税引前利益	304	<b>252</b>	-52	-17.0%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	228	<b>174</b>	-54	-23.6%
USD	104.45	<b>113.60</b>		
EUR	124.41	<b>130.39</b>		

それでは業績説明です。

2021年度の第3四半期における売上収益は、前年同期比 70億円増となる **1,845億円**となりました。  
事業セグメント利益は、78億円減の **235億円**、営業利益は、55億円減の **248億円**となりました。

# 2021年度第3四半期 事業セグメント別実績

単位：億円

		20Q3	21Q3	増減
プリンティング&ソリューションズ	売上収益	1,092	1,149	57
	事業セグメント利益	243	178	-65
	営業利益	242	179	-63
パーソナル&ホーム	売上収益	161	113	-47
	事業セグメント利益	41	15	-26
	営業利益	40	16	-25
マシナリー	売上収益	221	262	41
	事業セグメント利益	22	32	10
	営業利益	13	32	19
ネットワーク&コンテンツ	売上収益	88	85	-3
	事業セグメント利益	-6	0	7
	営業利益	-7	12	18
ドミノ	売上収益	176	200	24
	事業セグメント利益	13	7	-6
	営業利益	10	7	-3
その他	売上収益	37	35	-2
	事業セグメント利益	2	3	1
	営業利益	4	3	-1
合計	売上収益	1,774	1,845	70
	事業セグメント利益	314	235	-78
	営業利益	303	248	-55

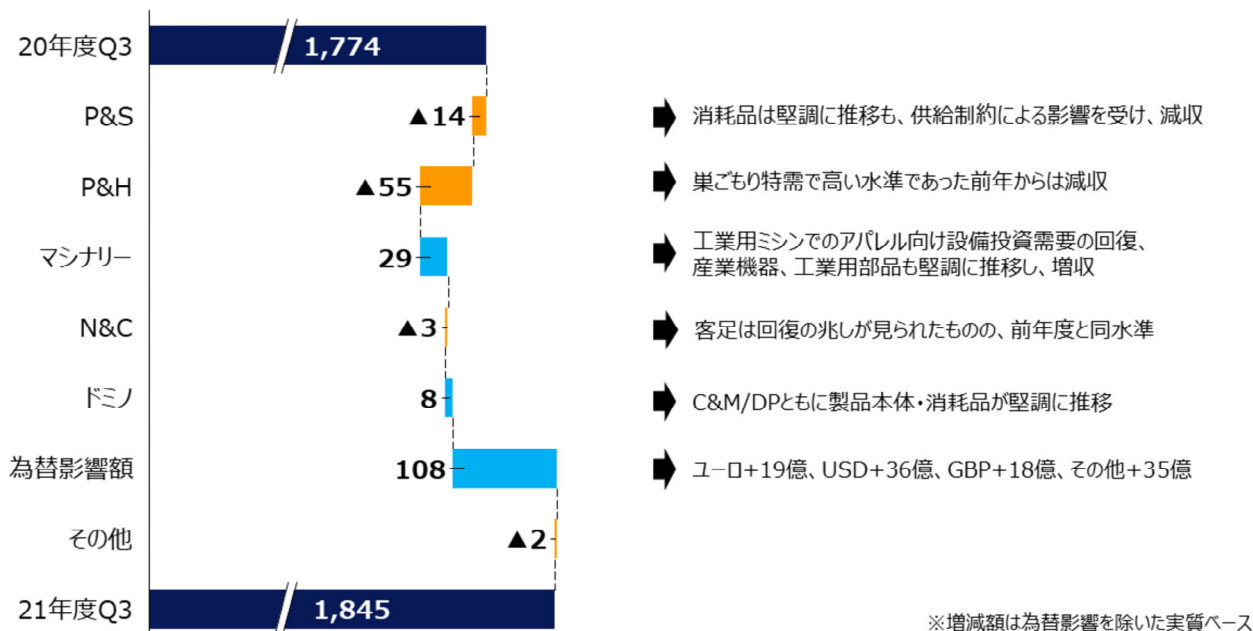
※セグメント間取引消去額は含めておりません。

事業セグメントごとの業績の一覧です。

# 2021年度第3四半期 売上収益の増減要因

為替のプラス影響に加え、主にマシンリー事業が堅調に推移し、増収となる

単位：億円



2021年度 第3四半期の売上収益の増減要因です。

## ・P&S

消耗品は堅調に推移したものの、供給制約による複合機・プリンター製品本体の販売への影響を受け、減収となりました。

## ・P&H

巣ごもり特需で高い水準であった前年からは減収となりました。

## ・マシンリー

工業用マシンのアパレル向け設備投資需要の回復に加え、産業機器、工業用部品も堅調に推移し、増収となりました。

## ・N&C

年末にかけてコロナの感染者数が減少し、客足は回復の兆しが見られたものの、前年度と同水準となりました。

## ・ドミノ

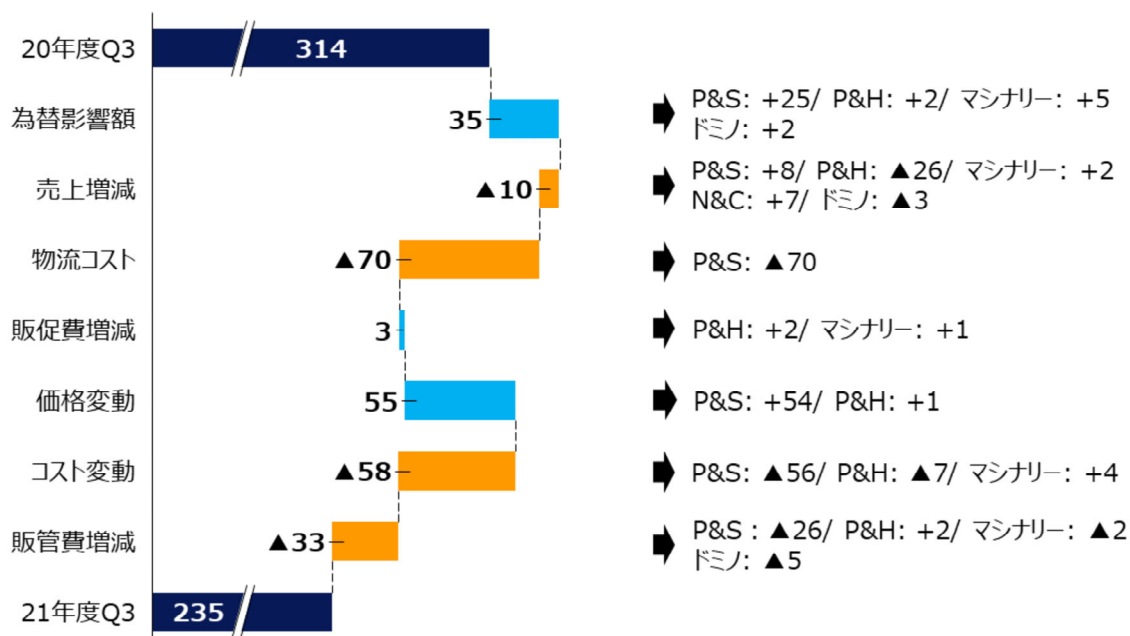
C&M/DPともに、製品本体・消耗品が堅調に推移し、増収となりました。

為替が円安で推移したことによるプラス影響に、マシンリー事業の堅調な推移が加わり、  
全社としては70億円増の **1,845**億円となりました。

# 2021年度第3四半期 事業セグメント利益の増減要因

主にP&S事業における平均単価の上昇や為替のプラス影響があったものの、  
物流・部材コストが大幅に悪化したことにより減益となる

単位：億円



© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

7

事業セグメント利益の増減要因です。

## ・為替影響

主にP&S事業によるものです。

## ・売上増減

P&H事業は巣ごもり特需があった前年同期比で売上が減少したことによるものです。

## ・物流コスト（※これまでは売上増減に入っていたものを 21年度Q1決算から物流コストとして記載しています）

主にP&S事業での物流コスト（航空運賃・海上運賃）が増加しました。  
航空輸送は、レーザー消耗品の供給不足への対応として実施したものです。

## ・価格変動

主にP&S事業によるものです。ミックスの改善や価格対応の効果により、平均単価が上がりました。

## ・コスト変動

主にP&S事業での半導体や樹脂材料など、部材のコストアップによるものです。

## ・販管費増減

P&S事業やドミノ事業で販管費が増加しました。

主にP&S事業における平均単価の上昇や為替のプラス影響もありましたが、  
物流・部材コストが大幅に悪化したことにより、全社では 78億円減の **235億円**となりました。

## 2021年度 第3四半期累計（4月-12月）業績



為替のプラス影響に加え、主にマシナリー事業・P&S事業での堅調な推移により  
売上収益・各段階利益は、第3四半期累計期間で過去最高（IFRS移行後）

単位：億円

	20年度 Q3累計	21年度 Q3累計	増減	増減率 ( )は為替影響 除く増減率
売上収益	4,675	<b>5,350</b>	675	14.4% (+8.1%)
事業セグメント利益	633	<b>729</b>	96	15.1%
事業セグメント利益率	13.5%	<b>13.6%</b>		
その他の収益・費用	-5	<b>31</b>	36	
営業利益	628	<b>760</b>	132	21.0%
営業利益率	13.4%	<b>14.2%</b>		
税引前利益	630	<b>768</b>	138	21.8%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	475	<b>543</b>	67	14.2%
USD	105.87	<b>111.38</b>		
EUR	122.30	<b>130.85</b>		

2021年度の第3四半期累計期間の売上収益は、為替のプラス影響に加え、主にマシナリー事業・P&S事業での堅調な推移により、前年比 675億円増となる **5,350**億円となりました。

事業セグメント利益は、96億円増の **729**億円、営業利益は、132億円増の **760**億円となりました。

# 2021年度Q3累計 事業セグメント別実績

単位：億円

		20年度Q3累計	21年度Q3累計	増減
プリンティング&ソリューションズ	売上収益	2,871	3,201	329
	事業セグメント利益	526	501	-25
	営業利益	529	506	-23
パーソナル&ホーム	売上収益	413	389	-25
	事業セグメント利益	82	73	-9
	営業利益	80	74	-6
マシナリー	売上収益	560	837	277
	事業セグメント利益	29	120	91
	営業利益	19	120	102
ネットワーク&コンテンツ	売上収益	238	218	-19
	事業セグメント利益	-33	-19	14
	営業利益	-29	3	32
ドミノ	売上収益	502	603	101
	事業セグメント利益	33	50	18
	営業利益	25	49	25
その他	売上収益	90	101	11
	事業セグメント利益	-1	6	6
	営業利益	6	8	2
合計	売上収益	4,675	5,350	675
	事業セグメント利益	633	729	96
	営業利益	628	760	132

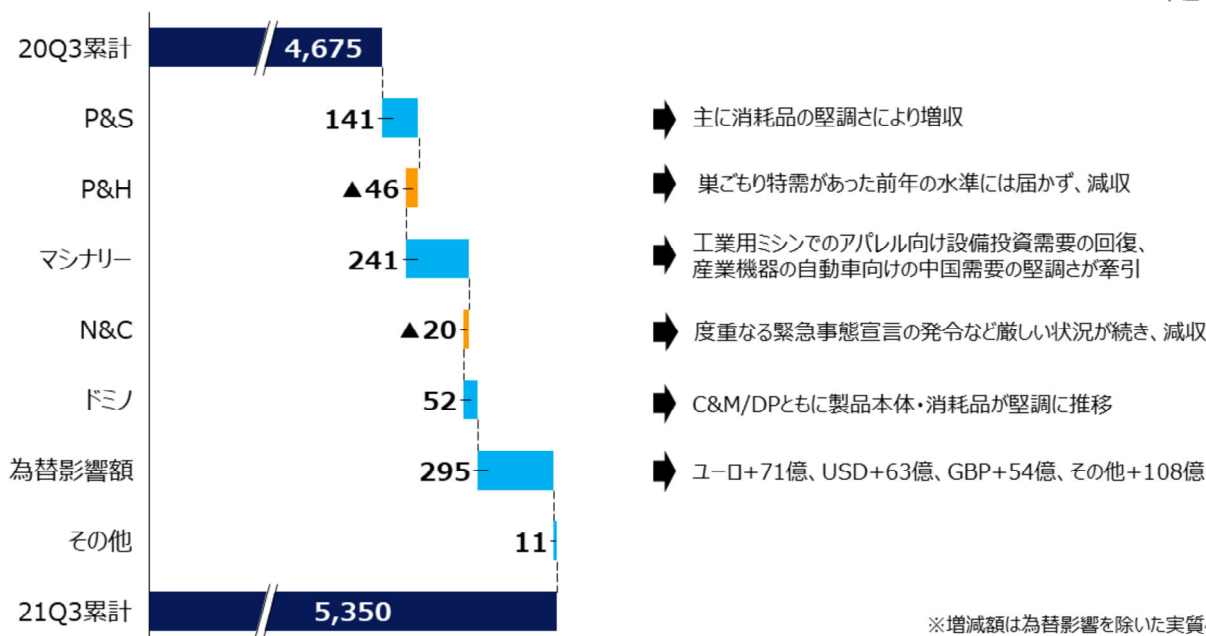
※セグメント間取引消去額は含めておりません。

事業セグメントごとの業績の一覧です。

# 2021年度Q3累計 売上収益の増減要因

為替のプラス影響に加え、主にマシナリー事業・P&S事業が堅調に推移し、増収となる

単位：億円



2021年度 第3四半期累計期間の売上収益の増減要因です。

## ・P&S

主に消耗品が堅調に推移したことにより増収となりました。

## ・P&H

欧米を中心に需要は堅調に推移したものの、巣ごもり特需があった前年の水準には届かず、減収となりました。加えて、東南アジアでのコロナ感染拡大による工場の稼働率が低下したことでの販売機会の損失の影響も出ています。

## ・マシナリー

工業用マシンのアパレル向け設備投資需要の回復、産業機器の自動車向けの中国需要の堅調さが牽引し、大幅な増収となりました。

## ・N&C

度重なる緊急事態宣言の発令など、厳しい状況が続き減収となりました。

## ・ドミノ

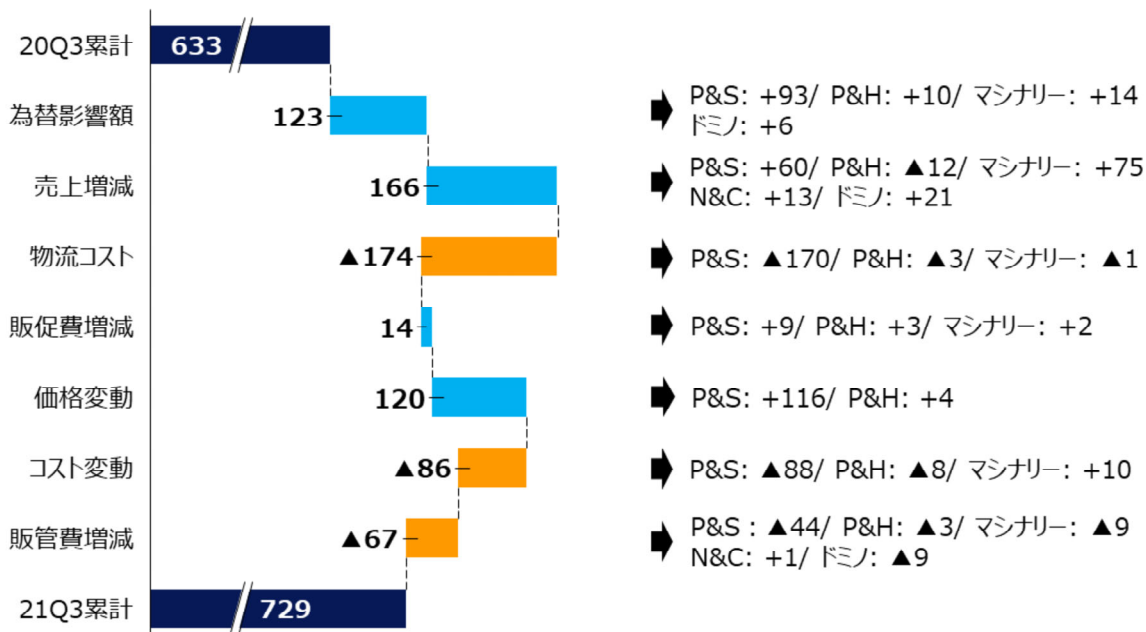
C&M/DPともに、製品本体・消耗品が堅調に推移し、増収となりました。

為替が円安に推移したことによるプラス影響 295億円が加わり、全社では675億円増の **5,350**億円となりました。

# 2021年度Q3累計 事業セグメント利益の増減要因

物流・部材コストが大幅に悪化したものの、マシナリー事業・P&S事業における粗利増やP&S事業の平均単価の上昇に為替のプラス効果も加わり、増益となる

単位：億円



© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

12

事業セグメント利益の増減要因です。主要な要素についてコメントします。

## ・為替影響

ほぼP&S事業によるものです。

## ・売上増減

マシナリー事業・P&S事業を中心に売上増が寄与しました。

## ・物流コスト (※これまでは売上増減に入っていたものを 21年度Q1決算から物流コストとして記載しています)

主にP&S事業での物流コスト(航空運賃・海上運賃)が増加しました。  
航空輸送は、レーザー消耗品の供給不足への対応として実施したものです。

## ・価格変動

主にP&S事業によるものです。ミックスの改善や価格対応の効果により、平均単価が上がりました。

## ・コスト変動

主にP&S事業での半導体や樹脂材料などの部材のコストアップによるものです。  
マシナリー事業は、前年比での工場の操業度上昇によるコスト低減効果によるものです。

## ・販管費増減

P&S事業、マシナリー事業、ドミノ事業などで販管費は増加しています。

これらにより、事業セグメント利益は、96億円増の **729**億円となりました。

## 2021年度 通期業績予想

主に為替のプラス影響を織り込み、売上・利益の見通しを上方修正

単位：億円

	前回予想	21年度 今回予想	増減	増減率	20年度 実績	増減	増減率 ( )は為替影響 除く増減率
売上収益	6,950	<b>7,000</b>	50	0.7%	<b>6,318</b>	682	10.8% (+5.6%)
事業セグメント利益	780	<b>810</b>	30	3.8%	<b>781</b>	29	3.7%
事業セグメント利益率	11.2%	<b>11.6%</b>			12.4%		
その他の収益・費用	0	<b>10</b>	10		-353	363	
営業利益	780	<b>820</b>	40	5.1%	<b>427</b>	393	91.9%
営業利益率	11.2%	<b>11.7%</b>			6.8%		
税引前利益	780	<b>825</b>	45	5.8%	<b>429</b>	396	92.1%
親会社の所有者に帰属する当期利益	530	<b>580</b>	50	9.4%	<b>245</b>	335	136.5%
USD	109.48	<b>111.14</b>			106.17		
EUR	128.59	<b>129.92</b>			123.73		

通期の業績予想は、為替レートが想定よりも円安で推移したことによるプラス影響を織り込み、売上・利益の見通しを上方修正いたします。

売上は、前回予想比 50億円増の **7,000**億円

利益については、

事業セグメント利益は、30億円増の **810**億円

営業利益は、40億円増の **820**億円

親会社当期利益は、50億円増の **580**億円 に引き上げます。

# 2021年度通期 事業セグメント別予想

単位：億円

		前回予想	21年度予想	増減	20年度実績	21年度予想	増減
プリンティング&ソリューションズ	売上収益	4,169	4,198	29	3,848	4,198	350
	事業セグメント利益	554	580	26	652	580	-72
	営業利益	564	593	29	610	593	-17
パーソナル&ホーム	売上収益	487	495	8	537	495	-42
	事業セグメント利益	75	82	7	98	82	-16
	営業利益	76	84	8	96	84	-12
マシナリー	売上収益	1,073	1,063	-10	789	1,063	274
	事業セグメント利益	119	119	0	41	119	78
	営業利益	118	120	2	33	120	87
ネットワーク&コンテンツ	売上収益	313	301	-12	310	301	-9
	事業セグメント利益	-26	-28	-2	-52	-28	24
	営業利益	-2	-7	-5	-73	-7	66
ドミノ	売上収益	780	795	15	698	795	97
	事業セグメント利益	62	51	-11	48	51	3
	営業利益	61	49	-12	-239	49	288
その他	売上収益	128	148	20	136	148	12
	事業セグメント利益	-4	6	10	-5	6	11
	営業利益	-37	-19	18	2	-19	-21
合計	売上収益	6,950	7,000	50	6,318	7,000	682
	事業セグメント利益	780	810	30	781	810	29
	営業利益	780	820	40	427	820	393

※セグメント間取引消去額は含めておりません。

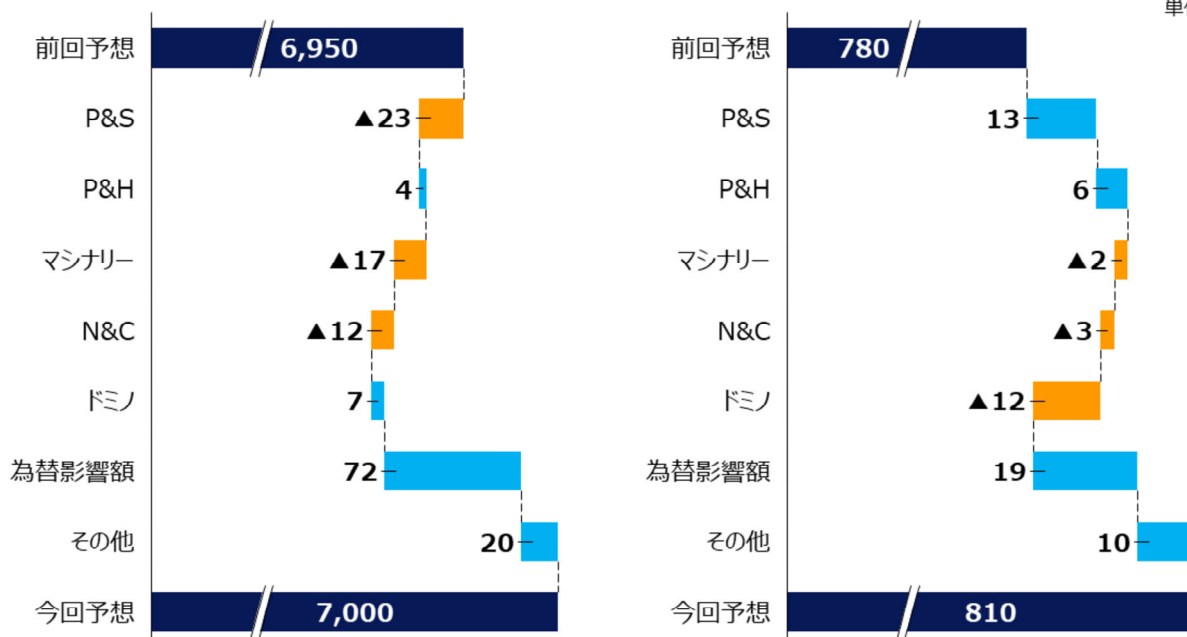
事業セグメントごとの業績予想の一覧です。

# 2021年度通期 売上収益/事業セグメント利益の増減

売上収益の増減

事業セグメント利益の増減

単位：億円



※増減額は為替影響を除いた実質ベース

2021年度の売上収益・事業セグメント利益の前回予想からの主な修正要因です。

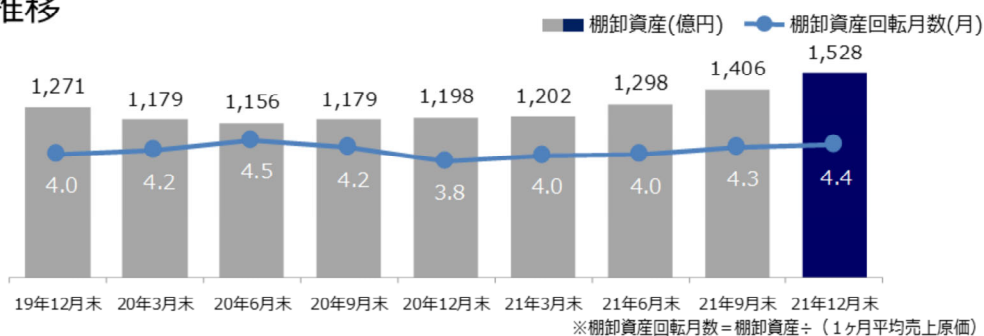
- ・P&S事業については、工場稼働率低下による供給への影響を織り込み、売上は下方修正。  
利益については物流・部材コストの悪化を見込むものの、主に第3四半期での前回予想を上回る堅調さを受け、上方修正。
- ・P&H事業については、主に第3四半期での前回予想を上回る堅調さを受け、売上・利益ともに上方修正。
- ・マシナリー事業については、主に産業機器および工業用マシンにおいて、2021年12月末からの中国西安工場のロックダウンの影響を織り込み、売上・利益ともに下方修正。
- ・N&C事業については、コロナ変異株急拡大により第4四半期の市場回復の前提を見直し、売上・利益ともに下方修正。  
なお、営業利益については、不採算店舗の閉店費用や店舗設備の減損損失を織り込んでいます。
- ・ドミノ事業については、主に販管費の上昇に加え、物流・部材コストの悪化を見込み、利益を下方修正。

これらに為替のプラス影響が加わり、売上・利益とも、通期の業績見通しを引き上げます。



	20年度末	21年度 Q3末	増減	
流動資産	4,288	4,431	144	<b>ネット・キャッシュ</b> 20年度末 : +1,335億円 21年度Q3末 : +1,208億円
現預金	1,910	1,602	-308	
棚卸資産	1,202	1,528	326	
非流動資産	3,151	3,226	74	<b>株主資本比率</b> 20年度末 : 64.9% 21年度Q3末 : 69.5%
負債合計	2,442	2,318	-124	
有利子負債	575	394	-181	
株主資本	4,831	5,323	493	
総資産	7,439	7,657	218	

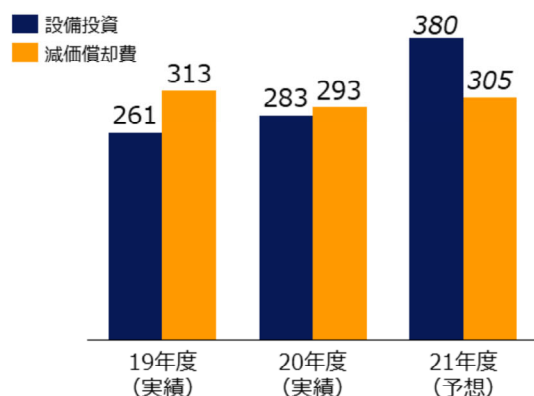
## 棚卸資産推移



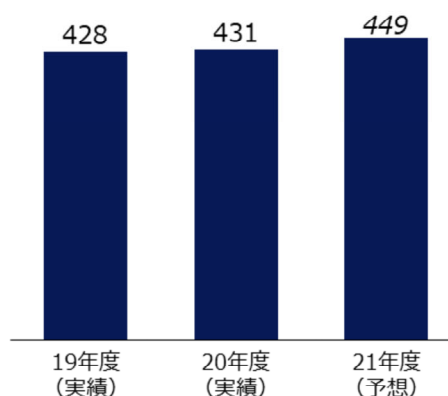
ネットキャッシュは、1,208億円となりました。

棚卸資産の水準は、主にP&S事業での消耗品在庫の充足が進んだことなどにより、上がっています。一方で、製品本体は、在庫不足が続いています。

## 設備投資・減価償却費



## 研究開発費



### 事業別設備投資内訳

	19年度	20年度	21年度
P&S	109	135	170
P&H	5	10	13
マシンリー	24	30	51
N&C	49	19	22
ドミノ	21	21	27
その他	52	67	97
計	261	283	380

### 事業別研究開発費内訳

	19年度	20年度	21年度
P&S	277	283	277
P&H	22	20	24
マシンリー	54	51	61
N&C	9	9	11
ドミノ	38	40	44
その他	29	28	33
計	428	431	449

2021年度の設備投資および減価償却費について、主にP&S事業で、コロナ影響により新製品の金型投資の進捗が遅れたことで、見直しました。

研究開発費については、前回公表時からの変更はありません。

## 【配当予想】

期末配当を1株あたり34円とし、年間64円の配当とする

	中間配当	期末配当	年間配当
2021年度	30円	34円（予定）	64円（予定）
2020年度	27円	33円	60円
2019年度	30円	30円	60円

## 【自己株式の取得】

100億円を上限として自己株式を取得する  
(取得期間：2022年2月2日～2022年7月29日)

業績予想の上方修正にともない、配当予想を前回予想から修正し、期末配当を1株あたり34円といたします。これにより、2021年度の1株あたり年間配当金は、64円（前回予想60円）となります。

なお、株主還元と資本効率の向上、および機動的な資本政策を遂行するため、100億円を上限として、自己株式の取得を行います。

## 【代表取締役社長 佐々木からの説明】

今年度もコロナ影響およびサプライチェーン周りのリスクは増大し、特殊な状況が続いておりますが、取締役会での審議を経て、自己株式の取得と配当予想の引き上げを実施することにいたしました。

まず自己株式の取得ですが、今回、100億円を上限として実施いたします。連結ベースでの業績、キャッシュフロー、現在の株価の水準等を勘案し、今期の着地想定が見えてきたこのタイミングで自己株式の取得を実施するという判断をいたしました。

なお、配当につきましては、業績予想の上方修正もあり、来期以降の安定性・継続性も考慮した上で、従来予想から引き上げを行います。

## セグメント業績概要

# プリンティング&ソリューションズ事業 地域別売上収益・事業セグメント利益・営業利益

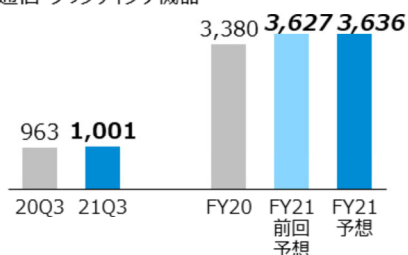


単位：億円

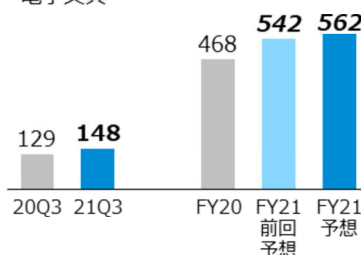
	20Q3	21Q3	増減率	為替影響 除く増減率	FY20	FY21 前回予想	FY21 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>	<b>1,092</b>	<b>1,149</b>	5.2%	-1.3%	<b>3,848</b>	<b>4,169</b>	<b>4,198</b>	9.1%	3.9%
<b>通信・プリンティング機器</b>	<b>963</b>	<b>1,001</b>	3.9%	-2.5%	<b>3,380</b>	<b>3,627</b>	<b>3,636</b>	7.6%	2.5%
米州	335	357	6.6%	-1.8%	1,214	1,275	1,307	7.7%	2.2%
欧州	323	330	2.1%	-3.5%	1,133	1,148	1,165	2.8%	-2.4%
アジア他	177	176	-1.0%	-9.4%	622	679	683	9.8%	2.1%
日本	129	139	8.0%	8.0%	410	524	481	17.1%	17.1%
<b>電子文具</b>	<b>129</b>	<b>148</b>	15.3%	7.6%	<b>468</b>	<b>542</b>	<b>562</b>	20.0%	14.0%
米州	54	65	21.6%	11.8%	204	244	253	23.7%	17.6%
欧州	41	46	10.9%	4.8%	142	167	171	20.9%	14.8%
アジア他	21	24	15.4%	5.4%	70	84	89	28.1%	18.3%
日本	13	13	2.2%	2.2%	52	48	48	-7.7%	-7.7%
<b>事業セグメント利益</b>	<b>243</b>	<b>178</b>	-26.7%	-	<b>652</b>	<b>554</b>	<b>580</b>	-11.0%	-
<b>営業利益</b>	<b>242</b>	<b>179</b>	-26.0%	-	<b>610</b>	<b>564</b>	<b>593</b>	-2.8%	-

<売上収益>

通信・プリンティング機器

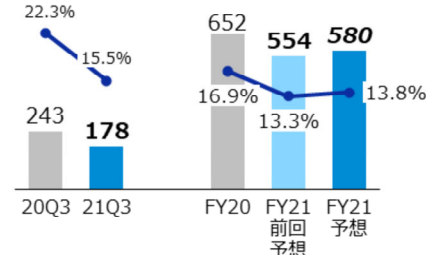


電子文具



<事業セグメント利益>

利益率



© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

21

P&S事業の第3四半期の売上収益は **1,149**億円。現地通貨ベースでの伸び率は、マイナス1.3%となりました。

## ・ 通信・プリンティング機器

売上収益は **1,001**億円。現地通貨ベースでの伸び率は、マイナス2.5%となりました。

インクジェット複合機においては、製品本体の販売数量は前年同期並みの水準となりました。

一方で、レーザー複合機・プリンターでは、コロナ影響により工場の稼働率が低下したことでの供給制約が影響し、製品本体の販売数量は落ち込みました。消耗品については供給不足への対応として空輸を継続しました。

為替のプラス影響に加え、消耗品全般の堅調な推移により、事業全体で増収となりました。

## ・ 電子文具

売上収益は **148**億円。現地通貨ベースでの伸び率は プラス7.6%の増収となりました。

ラベルライター・ラベルプリンター、モバイルプリンターを中心とするソリューション分野とも、需要の回復により増収となりました。

事業セグメント利益は、ミックスの改善、価格対応の効果や為替のプラス影響があったものの、物流・部材コストが大幅に悪化したことにより、前年同期比マイナス26.7%の **178**億円となりました。

# プリンティング&ソリューションズ事業 主要製品別売上伸び率・構成比



	19Q1	19Q2	19Q3	19Q4	20Q1	20Q2	20Q3	20Q4	21Q1	21Q2	21Q3	21Q4	19通期	20通期	21通期 予想
<b>LBP</b>															
売上伸び率（円ベース/前年比）															
本体	-9%	-8%	-7%	-2%	6%	19%	18%	18%	-10%	-4%	-9%	-	-7%	15%	-6%
消耗品	2%	-6%	-2%	-3%	-18%	1%	0%	-1%	21%	15%	14%	-	-2%	-5%	14%
売上伸び率（現地通貨ベース/前年比）															
本体	-6%	-4%	-3%	2%	11%	22%	21%	18%	-16%	-9%	-15%	-	-3%	18%	-10%
消耗品	4%	-1%	3%	0%	-15%	2%	2%	-3%	12%	9%	6%	-	1%	-4%	8%
<b>IJP</b>															
売上伸び率（円ベース/前年比）															
本体	-2%	8%	-7%	-3%	-37%	-49%	-12%	-3%	90%	95%	17%	-	-1%	-25%	40%
消耗品	1%	-2%	-8%	4%	-23%	-1%	9%	-6%	11%	-6%	-3%	-	-2%	-5%	-3%
売上伸び率（現地通貨ベース/前年比）															
本体	1%	13%	-4%	0%	-33%	-48%	-9%	-3%	79%	87%	11%	-	2%	-23%	34%
消耗品	3%	3%	-5%	7%	-20%	-1%	10%	-8%	5%	-10%	-7%	-	2%	-5%	-6%
消耗品比率	60%	58%	57%	59%	55%	57%	55%	56%	56%	57%	58%	-	58%	55%	56%
販売台数伸び率（実績のみ/前年比）															
LBP	-13%	-4%	-2%	3%	12%	10%	6%	0%	-28%	-16%	-20%	-	-5%	7%	-
IJP	0%	13%	1%	7%	-39%	-57%	-24%	-25%	65%	101%	1%	-	5%	-36%	-

© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

22

第3四半期における主要製品の売上伸び率・構成比です。

### ・売上伸び率（現地通貨ベース）

レーザー（LBP）の売上伸び率は、本体がマイナス15%、消耗品はプラス6%となりました。

製品本体の供給制約により、在宅需要の高まりを受けて好調に推移した前年同期の水準までには回復していません。

消耗品は、お客様対応優先のため航空輸送を継続し、在庫の充足に努めました。

インクジェット（IJP）の売上伸び率は、本体がプラス11%、消耗品はマイナス7%となりました。

価格対応などの効果により、本体売上は前年同期を上回る水準となりました。

消耗品売上は、在庫が充足しつつあることや前年度の供給制約の影響を受け、減少しました。

### ・販売台数伸び率：

レーザー（LBP）では、供給制約が影響し、マイナス20%となりました。

インクジェット（IJP）では、供給制約により、販売台数が大きく落ち込んでいた前年度上期と比較して、

今年度上期は大幅な伸びを見せています。

第3四半期は、販売台数が回復しつつあった前年同期並みの水準となりました。

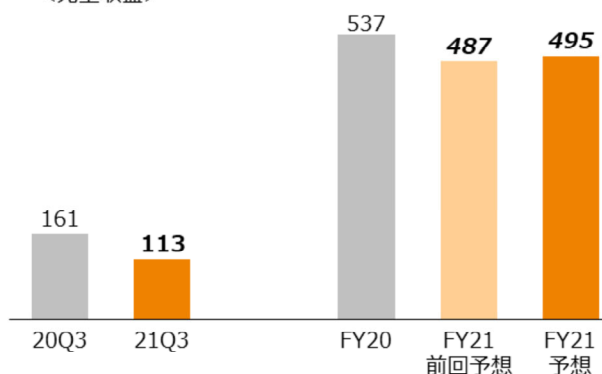
# パーソナル&ホーム事業 地域別売上収益・事業セグメント利益・営業利益



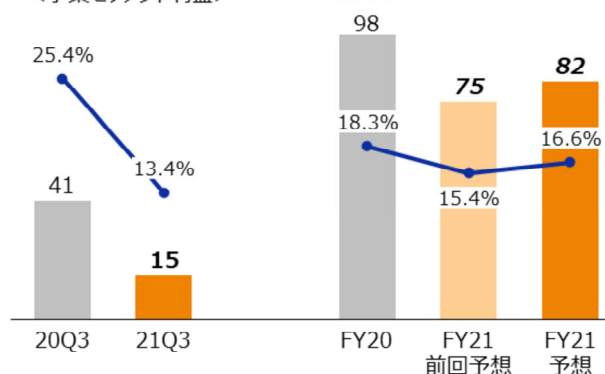
単位：億円

	20Q3	21Q3	増減率	為替影響 除く増減率	FY20	FY21 前回予想	FY21 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
	<b>売上収益</b>	<b>161</b>	<b>113</b>	-29.5%	-34.1%	<b>537</b>	<b>487</b>	<b>495</b>	-7.7%
米州	84	63	-24.8%	-30.6%	273	265	270	-1.0%	-5.5%
欧州	48	31	-34.3%	-37.6%	160	139	142	-11.3%	-16.1%
アジア他	17	13	-21.3%	-27.2%	56	49	51	-9.0%	-14.6%
日本	12	6	-54.1%	-54.1%	48	34	32	-32.3%	-32.3%
<b>事業セグメント利益</b>	<b>41</b>	<b>15</b>	-62.8%	-	<b>98</b>	<b>75</b>	<b>82</b>	-16.4%	-
<b>営業利益</b>	<b>40</b>	<b>16</b>	-61.3%	-	<b>96</b>	<b>76</b>	<b>84</b>	-12.9%	-

<売上収益>



<事業セグメント利益>



© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

23

P&H事業の第3四半期の売上収益は **113**億円、現地通貨ベースでの伸び率は、マイナス34.1%の減収となりました。

足元での需要は、巣ごもり特需があった前年の水準からは落ち着きをみせています。  
加えて、東南アジアでのコロナ感染拡大により工場の稼働率が低下したことでの販売機会の損失の影響も出ています。

事業セグメント利益については、減収に加え、部材コストなどの増加もあり、  
前年同期の41億円に対して、26億円減の **15**億円となりました。

# マシナリー事業

## 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother  
at your side

単位：億円

	20Q3	21Q3	増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	221	262	18.8%	13.2%
工業用マシン	69	90	30.2%	20.4%
産業機器	108	118	9.4%	5.3%
工業用部品	43	54	24.0%	21.5%

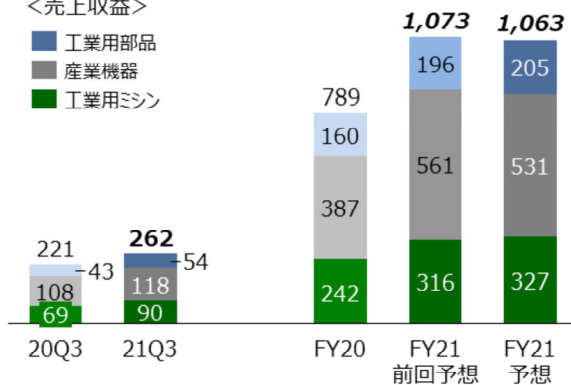
	FY20	FY21 前回予想	FY21 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	789	1,073	1,063	34.7%	29.7%
工業用マシン	242	316	327	35.4%	27.8%
産業機器	387	561	531	37.2%	32.6%
工業用部品	160	196	205	27.6%	25.6%

事業セグメント利益	22	32	45.0%	-
営業利益	13	32	139.9%	-

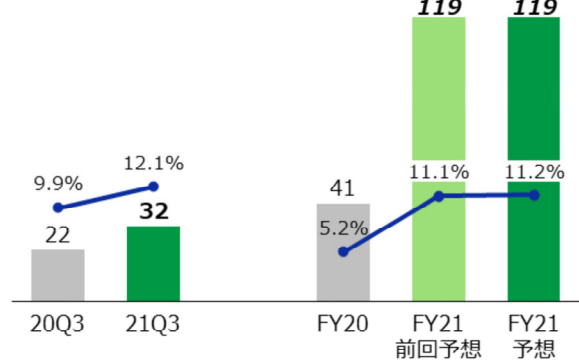
事業セグメント利益	41	119	119	188.8%	-
営業利益	33	118	120	263.2%	-

＜売上収益＞

■ 工業用部品  
■ 産業機器  
■ 工業用マシン



＜事業セグメント利益＞ ● 利益率



© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

24

マシナリー事業の第3四半期は、3つの事業全てにおいて、売上、利益ともに堅調に推移しました。

売上収益は、マシナリー事業全体で **262**億円。  
現地通貨ベースでの伸び率は、プラス13.2%の増収となりました。

売上収益の内訳は、  
工業用マシンが **90**億円、産業機器が **118**億円、工業用部品が **54**億円となりました。

### ・工業用マシン

工業用マシンについて、アジア・中国向けでのアパレル設備投資需要の回復により、好調に推移しました。

### ・産業機器

中国の自動車関連市場向けが堅調に推移したことに加え、IT関連顧客向けのスポット受注の効果もあり、増収となりました。

### ・工業用部品

設備投資需要の回復により、減速機・歯車ともに大幅な増収となりました。

事業セグメント利益は、増収効果により、3事業すべてで大幅な増益となり、  
事業全体で、前年同期比プラス45.0%の **32**億円となりました。



# マシナリー事業 地域別売上収益

brother  
at your side

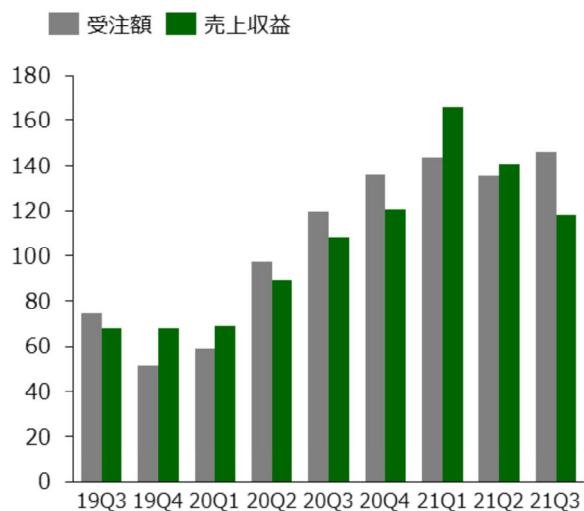
単位：億円

	20Q3	21Q3	増減率	為替影響 除く増減率	FY20	FY21 前回予想	FY21予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>	<b>221</b>	<b>262</b>	<b>18.8%</b>	<b>13.2%</b>	<b>789</b>	<b>1,073</b>	<b>1,063</b>	<b>34.7%</b>	<b>29.7%</b>
<b>工業用ミシン</b>	<b>69</b>	<b>90</b>	<b>30.2%</b>	<b>20.4%</b>	<b>242</b>	<b>316</b>	<b>327</b>	<b>35.4%</b>	<b>27.8%</b>
米州	22	28	24.5%	14.6%	87	94	96	10.4%	5.2%
欧州	17	22	31.8%	25.2%	56	72	71	28.8%	22.6%
アジア他	27	38	40.8%	27.9%	88	146	146	66.4%	54.6%
日本	3	2	-26.2%	-26.2%	12	3	14	19.1%	19.1%
<b>産業機器</b>	<b>108</b>	<b>118</b>	<b>9.4%</b>	<b>5.3%</b>	<b>387</b>	<b>561</b>	<b>531</b>	<b>37.2%</b>	<b>32.6%</b>
米州	5	7	37.9%	-	20	33	33	64.8%	-
欧州	7	9	26.5%	-	19	34	34	79.9%	-
アジア他	80	81	1.0%	-	289	406	375	29.7%	-
日本	16	21	34.3%	-	59	89	89	51.0%	-
<b>工業用部品</b>	<b>43</b>	<b>54</b>	<b>24.0%</b>	<b>21.5%</b>	<b>160</b>	<b>196</b>	<b>205</b>	<b>27.6%</b>	<b>25.6%</b>
米州	6	7	15.7%	6.3%	21	27	28	34.9%	28.6%
欧州	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アジア他	6	8	25.8%	18.0%	20	23	27	38.6%	29.0%
日本	31	39	25.2%	25.2%	120	146	150	24.6%	24.6%

# マシナリー事業（産業機器） 受注額の推移

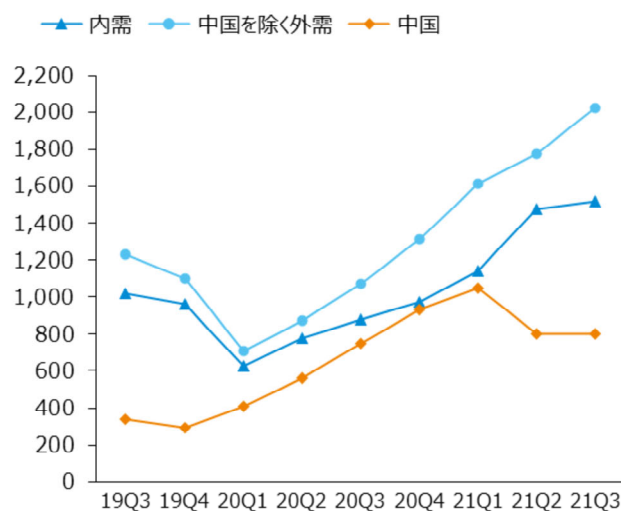
単位：億円

受注額・売上収益の推移



※国内・海外の製品本体の受注額合計  
海外受注額は各四半期の為替レートにて円換算

(参考) 日工会受注統計



※出所：（一社）日本工作機械工業会 工作機械主要統計より

四半期ごとの売上収益と受注額です。

受注額は、国内受注と海外受注を合わせた製品本体受注の合計額です。  
21年度の第2四半期では中国の減速を受けたものの、第3四半期では内需・外需ともに受注状況は回復しつつあります。

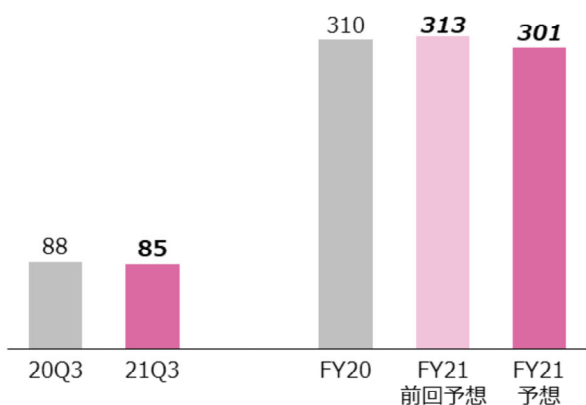
# ネットワーク&コンテンツ事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益



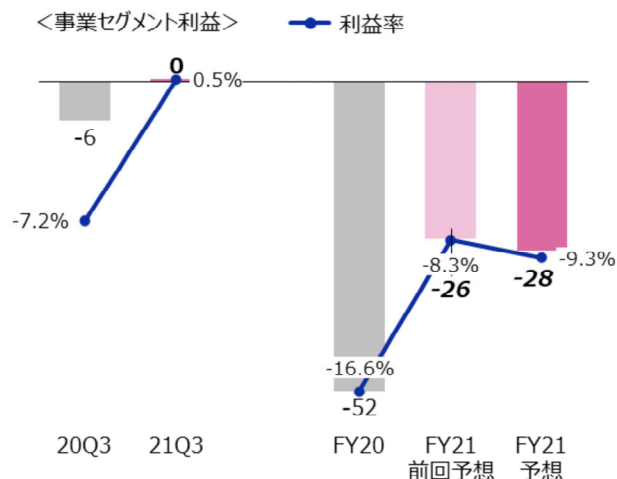
単位：億円

	20Q3	21Q3	増減率	FY20	FY21 前回予想	FY21 予想	対前年 増減率
売上収益	88	85	-3.1%	310	313	301	-3.0%
事業セグメント利益	-6	0	-	-52	-26	-28	-
営業利益	-7	12	-	-73	-2	-7	-

<売上収益>



<事業セグメント利益>



© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

27

N&C事業の第3四半期の売上収益は **85**億円、前年同期比マイナス3.1%の減収となりました。

第3四半期においては、年末にかけてコロナの感染者数が減少し、店舗事業は客足の緩やかな回復もありましたが、事業全体としては減収となりました。

事業セグメント利益は、前年度に実施した不採算店舗の閉店効果などにより黒字となりました。

営業利益については、雇用調整助成金の効果があり、前年同期の7億円の赤字に対し、**12**億円の黒字となりました。

通期予想については、コロナ変異株急拡大により第4四半期の市場回復の前提を見直し、売上・利益ともに下方修正しました。

なお、営業利益については、不採算店舗の閉店費用や店舗設備の減損損失を織り込んでいます。

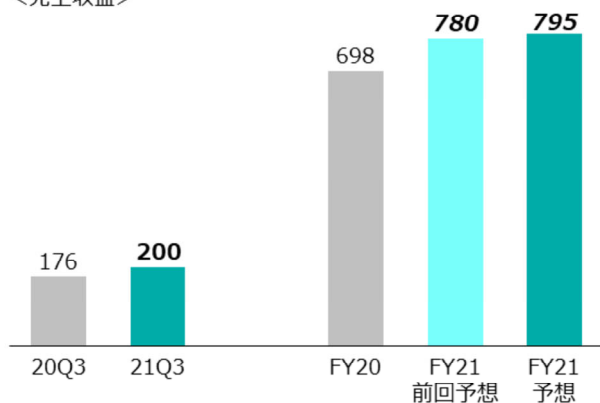
(店舗数 2021年3月末：89店

2022年3月末：77店 (予定) )

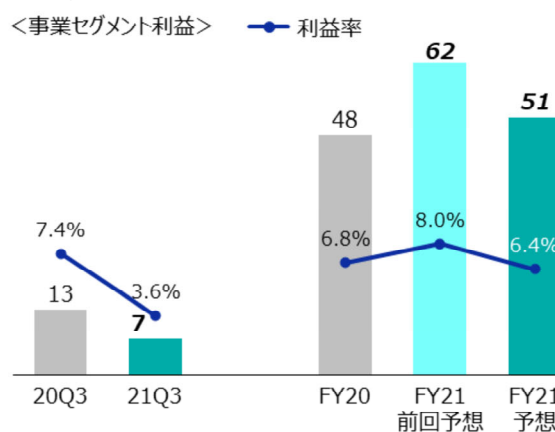
単位：億円

	20Q3	21Q3	増減率	為替影響 除(増減率)	FY20	FY21 前回予想	FY21 予想	対前年 増減率	為替影響 除(増減率)
売上収益	176	200	13.8%	4.4%	698	780	795	13.8%	6.0%
米州	44	47	4.9%	-2.1%	176	192	196	11.2%	4.2%
欧州	80	92	15.1%	3.0%	324	362	367	13.3%	4.3%
アジア他	51	61	19.5%	11.3%	198	226	231	16.9%	10.9%
事業セグメント利益	13	7	-44.5%	-	48	62	51	7.3%	-
営業利益	10	7	-31.7%	-	-239	61	49	-	-

<売上収益>



<事業セグメント利益>



ドミノ事業の第3四半期の売上収益は **200**億円、ポンドベースの伸び率は、プラス4.4%の増収となりました。

製品本体は、C&Mに加えてDPも市況が回復し、消耗品についてもC&M/DPともに引き続き堅調に推移しています。

事業セグメント利益については、販管費の増加などにより、前年同期比マイナス44.5%の **7**億円となりました。

新中期戦略「CS B2024」（2022～2024年度）は  
2021年度通期決算発表と同日に公表いたします  
（2022年5月予定）

新中期戦略の公表は、2022年5月を予定しています。

昨年11月の第2四半期決算説明会では、ブラザーグループ新ビジョン「At your side 2030」の説明をいたしました。こちらのビジョンからバックキャストिंगして、2022年度～2024年度までの3か年中期戦略を策定しているところですが、足元でのコロナ感染の再拡大やサプライチェーンまわりのリスクを踏まえ、前提条件をどう置くべきかなど、慎重に議論を進めております。

持続的な成長のための戦略および効率的な投資、株主還元を含めた資本政策などの具体的な内容については、新中期戦略公表時に、詳しくお話いたします。

皆さまには、5月の決算発表同日に公表することを予定しているので、もうしばらくお待ちください。

※ブラザーグループ新ビジョン「At your side2030」に関する説明資料は以下のページでご覧いただけます。  
<https://global.brother/ja/corporate/vision>

**brother**  
at your side